

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ
http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/

2016 石鳳祭

「2016石鳳祭」が10月8、9日に開催され、活気あふれるキャンパスに多くの学生や卒業生、市民が集い、秋の一日を楽しんだ。

今年のテーマは改良や刷新という意味の「REFORM」。「今までの形式にとらわれず、新しいものを生み出して地域を巻き込んだ祭り」にしたい。石鳳祭をより良いものにしていくという思いを込めた」と遠藤志穂実行委員長(人間2・宮城県塩釜高)は話した。学生会館前に設けられ



軽快な演奏で観客を魅了したSWO



石巻市の研究者が地元の茶の歴史を講演



模擬店の人気商品「李チヂミ」を販売する経営学部の新東塾ゼミ生

たメインステージでは、初日にSWO(石巻専修大学シンフォニック・ウインド・オーケストラ)の演奏、ローカルヒーロー「雷神音戦士アニディアン」のアクションやゲームで盛り上がる中屋祭、フラダンスショーと多彩なプログラムが展開。2日目はシンガー・ソングライター神田莉緒香さん、バンド「神立ハイヴン学園ぶれい部」、お笑いコンビ「タイムマシン3号」が登場し、会場を沸かせた。昨年まで体育館で行われていたライブを、今年OBのマグナム石巻らが



息の合ったダンスを見せたダンス愛好会

2018年4月
創立30年を
迎えます

ホームカミングデーも

石鳳祭に合わせ8日に「ホームカミングデー」が開催された。旧友や恩師と笑顔を交わし、再会を喜び合う卒業生の姿が数多くみられた。

模範店や地場産品の販売、フリーマーケットでキャンパスはお祭り気分。市民の手で今年誕生したばかりの「石巻復興踊りエンヤドット」を宣伝する学生企画のコンテストも行われ、ビートの効いた曲に振り合わせ人の姿も。石巻地方のお茶の魅力を伝える講演会や、理工・経営・人間の各学部が主催する企画展にもぎわった。

杜の都での快走誓う

全日本大学女子駅伝壮行式



熱い応援を受け、笑顔で健闘を誓う部員たち

力を出し切って昨年以上の成績を。全日本大会(杜の都駅伝)10月30日、仙台市)に出場する女子競走部の壮行式が10月4日に学内で開催され、2年連続2回目のレースに臨む部員たちに熱いエールが送られた。

上位2校が本選に出場できる東北地区代表選考会は9月12日、宮城県総合運動公園(利府町)で行われた。1大学2チーム(仙光星高)▽川崎美析さん(人間2・山形県山形城北高)▽高橋七海さん(人間2・山形県九里学園高)▽千葉悠里奈さん(人間2・宮城県常盤木学園高)▽庄司琴美さん(経営1・宮城県聖和学園高)

【本戦登録選手】

▽寺牛若菜さん(経営2・埼玉県飯能高)▽原田詠麻さん(経営2・静岡県静岡北高)▽牧野あやさん(経営2・岩手県北上翔南高)▽漆戸雛さん(人間2・青森県八戸学園高)

5人が米・メーコン大訪問

復興の現状も伝える



テイラー・アンダーソン記念基金による米国ランドルフ・メーコン大学(バージニア州)との交流事業に参加するため、学生5人(引率・大津幸一人間学部教授)が9月5日に渡米、16日まで同大などで研修し、教員や学生らと交流を深めた。国際交流センターの企画。同大は、ALT(外国語でランドルフ・メーコン大学の学生と意見を交わす川さん

昨年引き続き派遣学生に選ばれた及川秀真さん(理工3・宮城県気仙沼高)は「石巻の復興状況をより詳しく伝えることができた。私は教員志望で、テイラーさんのようにさまざまな人との交流を大切にする人物になりたい」と話す。交流事業は今年度で最終年度。7月には同大の教員や学生5人が来学した。

南東北大学野球秋季リーグ戦

惜しくも2位

南東北大学野球秋季リーグ戦の優勝決定戦が10月9日、福島県郡山市の日大工学部野球場で行われ、硬式野球部は福島大に3-7で敗れた。2位に終わり、明治神宮大会出場をかけた東北地区代表決定戦進出はかなわなかった。

総合力では今一歩及ばなかったが、個人では菅さん(経営1・長野県松商

学園高をはじめとする投手陣が奮闘。勝負強い打撃でチームをけん引した伊藤さんらの活躍でリーグ戦を8勝2敗で終え、福島大との優勝決定戦に臨んだ。

初回に先制を許すも、四回裏に佐藤駿さん(経営2・青森県八戸学院光星高)の2点本塁打で逆転。しかし、投手陣が相手打線につかまって失点を重ね、じりじりと点差が開いた。九回裏に意地を見せ、1点を返したものの涙をのんだ。

酒井健志監督は「優勝がかかったこ一番で、勝ちに対する執念が出せなかった。結果は残念だが、悔やんでばかりはいられない。今シーズンで自信をつけた選手も多い。来シーズンへ向けて個々のレベルを上げられるよう努めると語った。

石巻専大経営・石原ゼミ

石巻の産業復興につなげたい。石巻専修大学経営学部石原慎士教授(地域産業論)のゼミが2011年、サバのあらで取っただしをスープにした「サバだしラーメン」を開発。商品化され、今年9月までに29万食を売り上げるヒット作になった。今や「サバだし」と言えば「石巻」と言われるほどだ。名物誕生までの道のりや人気の秘密、最新の開発商品や話題を石原教授、ゼミ生、OBや連携事業者に聞いた。

サバだしラーメン人気沸騰

石巻伝統の味を生かし商品開発



石原教授(左から2人目)と伊藤ゼミ長(同4人目)、早坂さん(右端)らゼミ生・卒業生、協力企業の皆さん
＝2016年「大学は美味しいフェア」で

5月末、東京新宿・高島屋で開かれた第9回「カニだし」と「ジャケエア。ここでは大学での研究や地域との連携により誕生した大学発ブランド食品が紹介される。今年(経営4)はじめてゼミ生8人が売り込みに奮闘。連携企業の関係者や石原ゼミのOBも多数訪れ、ゼミ生を応援した。ブースを訪れた他大学

石原ゼミは同フェアに第7回から出展している。今年の主な出展商品は▽石巻・飯野川発サバだしラーメン(チルドタイプと贈答品用)▽鳥取・境港発カニだしラーメン▽宮城・石巻発ジャケだしラーメン。サバだしは毎回常連だが新商品「カニだし」と「ジャケエア。ここでは大学での研究や地域との連携により誕生した大学発ブランド食品が紹介される。今年(経営4)はじめてゼミ生8人が売り込みに奮闘。連携企業の関係者や石原ゼミのOBも多数訪れ、ゼミ生を応援した。ブースを訪れた他大学



人気のサバだしラーメン

人気のサバだしラーメン。源を最大限に活 県内外のさまざまなイ

しい。サバの先入観が消えた」と言う声も。新商品を続々開発中で、「どぶ漬け唐揚げ」や、過去には郷土料理を現代風にした「ずるびきあなかけ」なども出展した。



石原ゼミは「まちづくりに」や「地域ブランドの形成手法」について実践的な考察を行っている。地域文化を発掘して盛り上げようと、石原教授と

異業種連携で独自商品

その後、農業生産法人の舟形アグリ、製麺業者の島金商店、水産加工の山徳平塚水産(いずれも石巻市)との産学・異業種連携開発商品として生麺タイプの商品版が発売された。水産加工残滓として排出されるあら(中骨、なかおち)からエキスを抽出し、濃縮スープ(平27石経営・働インテック)は一年次生。大震災の時は一年次生。被災地の大学として何かできることはないかと考

その後、農業生産法人の舟形アグリ、製麺業者の島金商店、水産加工の山徳平塚水産(いずれも石巻市)との産学・異業種連携開発商品として生麺タイプの商品版が発売された。水産加工残滓として排出されるあら(中骨、なかおち)からエキスを抽出し、濃縮スープ(平27石経営・働インテック)は一年次生。大震災の時は一年次生。被災地の大学として何かできることはないかと考

その後、農業生産法人の舟形アグリ、製麺業者の島金商店、水産加工の山徳平塚水産(いずれも石巻市)との産学・異業種連携開発商品として生麺タイプの商品版が発売された。水産加工残滓として排出されるあら(中骨、なかおち)からエキスを抽出し、濃縮スープ(平27石経営・働インテック)は一年次生。大震災の時は一年次生。被災地の大学として何かできることはないかと考

その後、農業生産法人の舟形アグリ、製麺業者の島金商店、水産加工の山徳平塚水産(いずれも石巻市)との産学・異業種連携開発商品として生麺タイプの商品版が発売された。水産加工残滓として排出されるあら(中骨、なかおち)からエキスを抽出し、濃縮スープ(平27石経営・働インテック)は一年次生。大震災の時は一年次生。被災地の大学として何かできることはないかと考

北まちづくり研究会「なつかしの町・飯野川」と協議し、「サバのあらで取ったスープのサバだしラーメン」を考案したのが始まりだ。サバの持つコクとうまみを最大限に引き出すことに成功、飯野川地区の四つの食堂で売り出した。現在は県外からのリピーターが増え、「サバだし」が看板メニューになった店もある。

北まちづくり研究会「なつかしの町・飯野川」と協議し、「サバのあらで取ったスープのサバだしラーメン」を考案したのが始まりだ。サバの持つコクとうまみを最大限に引き出すことに成功、飯野川地区の四つの食堂で売り出した。現在は県外からのリピーターが増え、「サバだし」が看板メニューになった店もある。



専修大学法学部フェスタ(2015年1月)では早坂さんが神田キャンパスを訪れ、専大生に振る舞った